今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第12集

東・太田遺跡

1985

福岡県教育委員会

序

「今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告」第12集“東・太田遺跡”が刊行の運びとなりました。今回の報告は1983年度に調査を実施しました糸島郡前原町東所在太田遺跡の埋蔵文化財の調査記録であります。

古墳時代の住居跡と平安時代の堀立柱建物群の報告でありますが，本書が文化財の保護と活用にわずかでも役立てれば幸甚に存じます。

調査に御協力いただいた地元の方々，建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所の方々をはじめ多くの皆さまに心からお礼申しあげます。

昭和60年３月31日

福岡県教育委員会
教育長　友野　隆

例　言

1．この報告は1983年度に福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局の委託を受けて実施した一般国道202号線今宿バイパス建設予定地に係る埋蔵文化財の調査記録である。
2．本報告の執筆分担は下記のとおりである。
　Ⅰ－1……橋口　達也
　Ⅱ－1・2・3－1）・2）……橋口　達也
　　3－3）……佐々木隆彦
3．遺構・遺物の実測は橋口・佐々木が，整図は橋口と豊福弥生が行なった。遺物撮影は平島美代子が行なった。
4．遺物の整理・復原は岩瀬正信の指導の下に九州歴史資料館で行なった。
5．本書の編集は橋口が行なった。

本文目次

頁
Ⅰ．はじめに……1
　1．はじめに……1
　2．調査の経過……4
　3．位置と環境……6
Ⅱ．発掘調査の記録……6
　1．はじめに……6
　2．調査の記録……6
　　1）A地点出土の遺物……6
　　2）C地点の調査……8
　　3）D地点の調査……14

挿図目次

頁
第1図　太田遺跡位置図（縮尺1/25,000）……5
第2図　太田遺跡付近地形図（縮尺1/1,000）……7
第3図　A地点出土の石器（縮尺1/2）……8
第4図　C地点遺構配置図（縮尺1/200）……9
第5図　1号掘立柱建物（縮尺1/60）……10
第6図　2号掘立柱建物（縮尺1/60）……11
第7図　3号掘立柱建物（縮尺1/60）……13
第8図　1号土壙（縮尺1/40）……14
第9図　C地点出土の土師器（縮尺1/3）……14
第10図　D地点遺構配置図（縮尺1/200）……15
第11図　D地点竪穴住居跡実測図（縮尺1/60）……16
第12図　竪穴住居跡出土土器実測図（縮尺1/3）……19
第13図　竪穴住居跡出土土器実測図（縮尺1/2）……20
第14図　D地点土壙実測図（縮尺1/20）……21
第15図　D地点溝状遺構（縮尺1/60）……22

Ⅰ はじめに

1. はじめに

建設省九州地方建設局から福岡県教育委員会が委託をうけた一般国道202号線今宿バイパス関係の埋蔵文化財の発掘調査の進行状況は，第２表に示すとおりである。これらの発掘調査の成果は現在まで「今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書」として第１集～第10集が刊行され

第１表　今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書一覧

番　号	副　　題	収録した遺跡	報　告　者	備　　考
第１集	福岡市大字拾六町所在の遺跡群	湯納遺跡 宮の前遺跡・E地点 高崎古墳群 大又遺跡	浜田　信也 酒井　仁夫 浜田 副島　邦弘	1969年調査 1970年報告
第２集	福岡市大字徳永・飯氏所在の遺跡	若八幡古墳 飯氏馬場遺跡 飯氏鏡原遺跡	柳田康雄，浜田，副島 永井　昌文 柳田，副島，浜田	1970・71年調査 1971年報告
第３集	福岡市西区大字拾六町所在の遺跡	高崎古墳群 大又遺跡	栗原　和彦 上野　精志	1971年調査 1973年報告
第４集	福岡市西区大字拾六町所在湯納遺跡の調査	湯納遺跡	青峰重範，松本　昂 林　弘也，山本輝雄 栗原，上野，馬田弘稔	1971・72年調査 1976年報告
第５集	福岡市西区・糸島郡前原町所在遺跡の調査	湯納遺跡 今宿大塚南遺跡 今宿高田遺跡 今宿小塚遺跡 糸島平野条里及び古野遺跡 上鑵子遺跡	沢村　　仁 松本，　林 細川　隆英 粉川　昭平 弓場　紀知 栗原，柳田 上野，馬田	1971・72・73年調査 1977年報告
第６集	糸島郡前原町大字波多江所在「波多江遺跡」	波多江遺跡	松本，林，大澤正己 丸山雍成，橋口達也 高橋　章，馬田	1978年調査 1982年報告
第７集	糸島郡二丈町深江・大入地区所在遺跡の調査	塚田遺跡 鎮懐石八幡宮裏古墳 赤岸遺跡	大澤，橋口，中間 橋口達也 中間研志	1979年調査 1982年報告
第８集	石崎・典り田遺跡Ⅰ	曲り田遺跡	橋口達也，中間研志 上原周三，長　哲二	1980・81年調査 1983年報告
第９集	石崎・曲り田遺跡Ⅱ	曲り田遺跡	佐々木稔，大澤正己 東村武信，藁科哲男 船越公威 橋口達也，中間研志	1980・81年調査 1984年報告
第10集	今宿高田遺跡	今宿高田遺跡	大澤正己，橋口達也 佐々木隆彦	1982年調査 1984年報告
第11集	石崎曲り田遺跡Ⅲ	曲り田遺跡	橋口達也，中間研志 佐々木稔，村田朋美， 伊藤　薫	1980・81年調査 1985年報告
第12集	東・太田遺跡	太田遺跡　・	橋口　達也 佐々木隆彦	1983年調査 1985年報告

第 2 表　今宿バイパス関係埋蔵文化財発掘調査の実績及び予定一覧

地点番号	遺跡名	所在地	調査所要区間			既調査面積				
			長さ	幅	面積	44年度	45年度	46年度	47年度	48年度
			m	m	m²	m²	m²	m²	m²	m²
1	遺物散布地	福岡市西区大字拾六町	34	28	520	45				
2	〃	〃	52	50	2,600	63				
3	湯納遺跡	〃	280	40	11,200	168		1,200	4,612	
3	〃	〃	30	20	600					450
4	宮の前遺跡	〃	110	40	4,400	400				
5	高崎1・2号墳	〃	36	15	540	160				
6	大又遺跡	〃	57	20	1,140	300		900		
6	高崎3・4・5号墳	〃	40	15	600	200		249		
7	須恵器散布地	〃	55	20	1,100	27				
8	弥生散布地	〃	33	39	1,287					
9	若八幡古墳	福岡市西区徳永	50	40	2,000		1,100			
10	馬場遺跡	福岡市西区飯氏	70	70	4,900		290			
11	鏡原遺跡	〃	70	50	3,500		550			
12	条里遺跡	福岡市西区大字飯氏 ～糸島郡前原町篠原	3,000	40	120,000			136		
13	古野遺跡	糸島郡前原町大字有田・篠原	150	40	6,000			482		
14	上鑵子遺跡	糸島郡前原町大字有田	70	30	2,100			304	630	
15	遺物散布地	〃	300	30	9,000					
16	古墳2基	糸島郡前原町	30	30	900					
17	遺物散布地	〃	100	30	3,000					
18	〃	〃	40	30	1,200					
19	今宿高田遺跡	福岡市西区大字今宿高田	50	40	2,000					
19′	今宿大塚南遺跡	福岡市西区大字今宿	100	40	4,000					650
20	今宿小塚遺跡	福岡市西区大字今宿女原	30	40	1,200					500
21	遺物散布地	糸島郡前原町	250	20	5,000					
22	〃	〃	50	40	2,000					
23	〃	〃	100	20	2,000					
24	〃	〃	230	20	4,600					
25	〃	〃	150	20	3,000					
26	〃	〃	200	20	4,000					
27	太田遺跡	糸島郡前原町東	300	30	9,000					
28	石崎曲り田遺跡	糸島郡二丈町大字石崎字曲り田	200	30	6,000					
29	遺物散布地	糸島郡二丈町大字上深江	100	40	4,000					
30	〃	糸島郡二丈町大字深江	100	40	4,000					
31	〃	〃	100	30	3,000					
(32)	鎮懐石八幡宮裏古墳	〃								
(33)		糸島郡二丈町大入								
(34)	赤岸遺跡	〃								

既調査面積								残調査予定面積	備考
53年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	計		
m²	m²	m²	m²	m²	m²	m²	m² 45	m² 0	調査不要
							63	0	〃
							5,980	0	発掘調査終了・報告書既刊
							450	0	〃
							400	0	報告書既刊
							160	0	発掘調査終了・報告書既刊
							1,200	0	〃
							449	0	〃
							27	0	調査不要
							0	0	消　滅
							1,100	0	保存確定・報告書既刊
							290	2,000	一部調査終了・報告書既刊
							550	2,000	〃
3,360							3,496	0	調査終了・報告書既刊
							482	0	〃
							934	0	〃
								4,500	
								0	路線変更のため調査不要
								0	〃
								1,000	旧追1
				2,000			2,000	0	旧追2・58年度報告
							650	0	旧追2・調査終了・報告書既刊
							500	0	旧追3　〃
								1,000	
								400	
								400	
								900	
								600	
								800	
					2,700		2,700	0	58年度調査・59年度報告
		2,000					2,000	0	調査終了・57～58年度一部報告 59年度一部報告
		100					100	0	遺構なし
	3,000						3,000	0	調査終了・56年度報告
								0	調査不要
	100						100	0	調査終了・56年度報告（二丈浜玉道路）
	30						30	0	調査終了・遺構なし（二丈浜玉道路）
	224						350	0	56年度報告（二丈浜玉道路）

ている(第１表)。

今回第12集として報告を行なうのは，第27地点糸島郡前原町東所在「太田遺跡」の調査である。

2．調査の経過

1983年度に建設省九州地方建設局から福岡県教育委員会が委託を受けた発掘調査地点は，糸島郡前原町東所在の遺物散布地としてあげられていた第27地点であった。

発掘調査は，1983年４月25日～５月25日の間に行なった。発掘地点は大字東字スス町，字若宮，字太田等があったが，太田をとって「太田遺跡」とした。

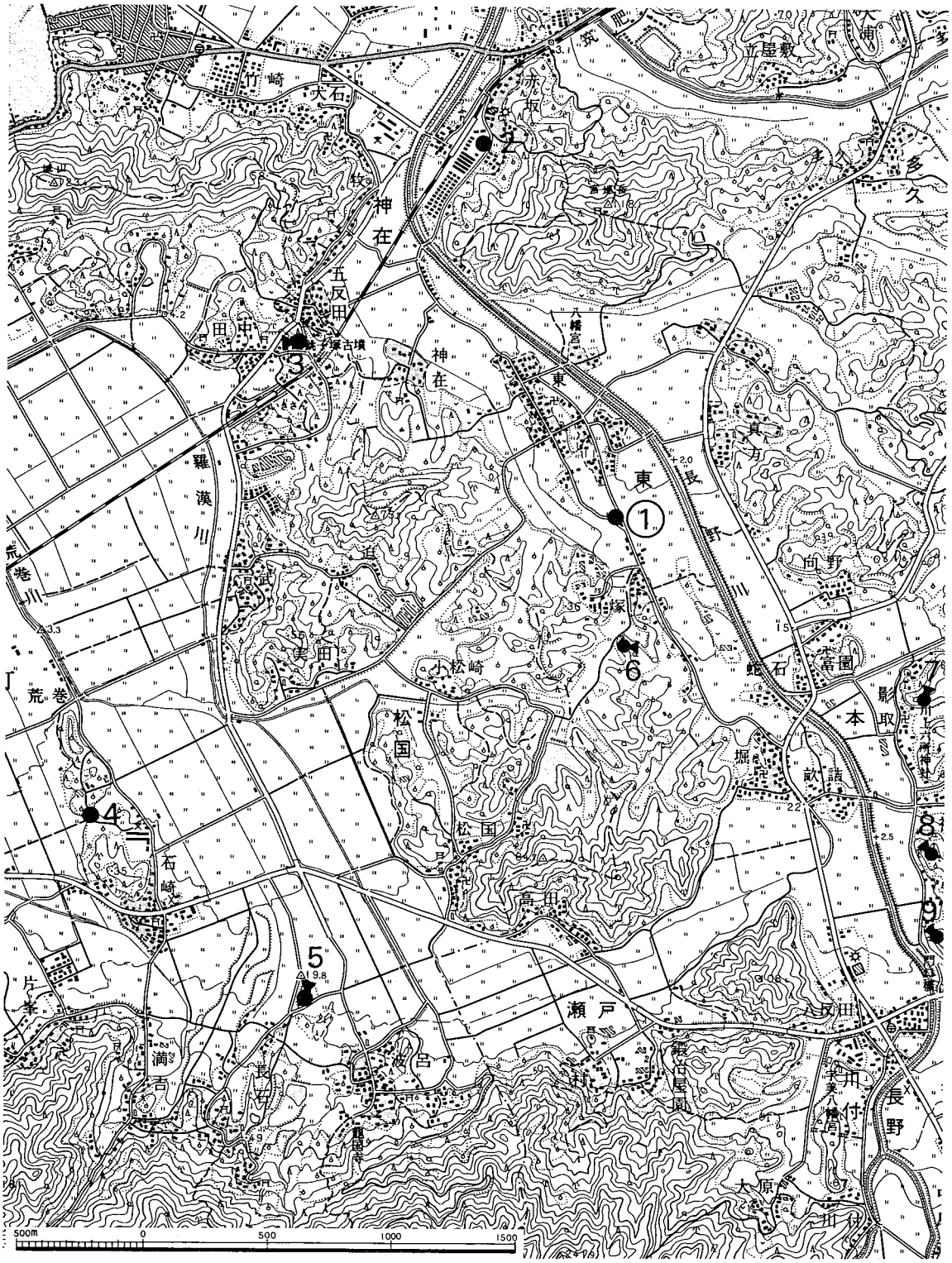
発掘区は，第２図に示すとおりに東側からＡ～Ｄの４地点に分け，低地部分にはトレンチを設け，台地部分は表土を全面除去して調査を行なった。Ｂ地点には，終戦後まで操業していたという瓦工場の跡が検出された。この地点は，瓦工場によって削平を受けており遺構は存在しなかった。Ａ地点もかなりの削平を受けて遺構は存在しなかったが，縄文時代の石斧等が発見され，付近に縄文後・晩期頃の遺構の存在を推定できた。低地の水田部にも遺構は検出されなかった。Ｃ地点では掘立柱建物３棟分が検出された。Ｄ地点では，台地の縁に削平を受けて壁のなくなった竪穴住居跡１棟と溝・土壙等が検出された。Ｄ地点の低地水田部分は俗に馬糞層とよばれる土質からなり，遺構は存在しなかった。

調査関係者は下記のとおりである。

総　　括	福岡県教育委員会	教　育　長	友野　　隆
	〃	文 化 課 長	藤井　　功(前)
	〃	〃	前田　栄一(現)
庶務会計	〃	文化課主任主事	川村喜一郎
調査担当	〃	文化課技術主査	橋口　達也
	〃	文化課主任技師	佐々木隆彦

なお調査に際しては建設省福岡工事事務所，前原町社会教育課，前原町東地区の西原茂政町議，波多江光司区長をはじめ地元の皆さまに種々の御協力をいただき調査が順調に進行したことに対して深い感謝の念を表したい。

又，遺物整理，図面整理，浄書等に蓑原鈴美・大田育子・原カヨ子の諸姉には多くの協力を受けた。記して感謝する。



第１図　太田遺跡位置図（縮尺1/25,000）

1．太田遺跡　2．釜塚遺跡　3．銚子塚古墳　4．曲り田遺跡
5．二塚古墳　6．東二塚古墳　7．横枕古墳　8．日明11号墳
9．日明３号墳

3．位置と環境

遺跡の所在する東地区は長野川流域の形成する沖積平野のほぼ中央部に位置し，周囲の水田との比高差４～５ｍ程の低台地をなしている。今回発掘を行なった地点は既に削平を受けて遺構の残存状態は悪かったが，周辺ではいままでに土器又は石棺等の出土があった事などを地元の各氏から聞いた。古墳時代になると長野川流域には，７基の前方後円墳と国指定史跡釜塚古墳等が知られている。最近当遺跡より南方約1.8kmの地点で夜臼式土器の出土があったということであり，西隣りの二丈町石崎付近と同様弥生時代早期以来，この地域が弥生時代～古墳時代に一つのまとまりを形成したことは明らかである。又，下流域は加布里の浜に面し，当時の海岸との窓口の一つとしても重要な位置を占めたことは狭い地域でありながら７基の前方後円墳が存在することから想像に難くない。

II　発掘調査の記録

1．はじめに

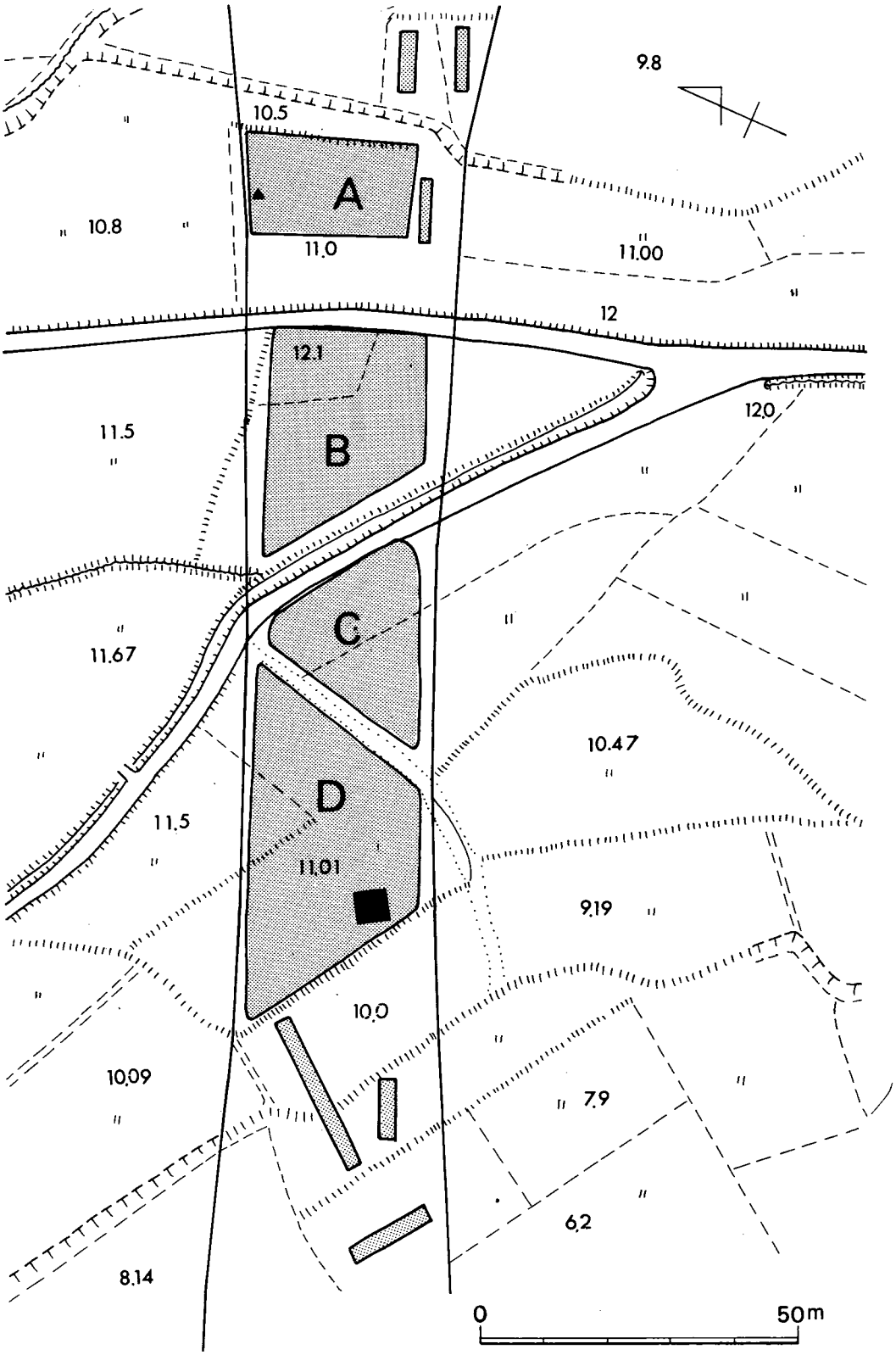
先にのべたように発掘地点はかなりの削平を受けており，遺構の残存状態は悪かった。Ａ・Ｂ地点においては遺構は検出されなかったが，第３図に示した縄文時代後・晩期のものと思われる石斧等が出土し，付近にこの時期の遺構の存在を推定できた。Ｃ地点では，平安時代の掘立柱建物３棟分，Ｄ地点では，古墳時代の竪穴住居跡１棟分等が検出された。以下順を追って説明を加えよう。

2．調査の記録

1）Ａ地点出土の遺物（第３図）

小形の石斧と黒耀石製の剝片を使用した石器が出土している。

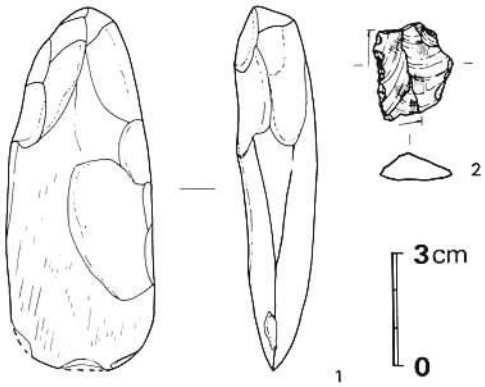
１は玄武岩製で長さ9.6cm，幅3.8cm，厚さ2.1cmを測る。全体に風化がいちじるしいが小形の磨製石斧と考えられる。刃部付近には長軸に対してやや斜方向の使用による擦痕が認められる

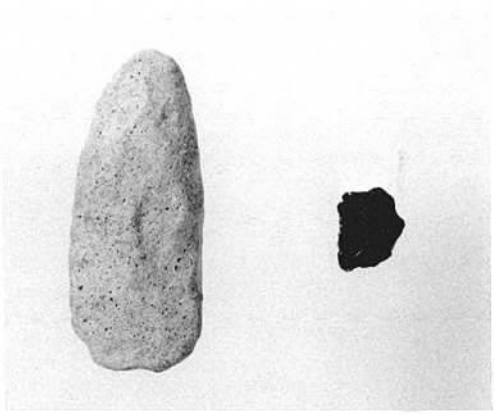


第 2 図　太田遺跡付近地形図（縮尺1/1000）

▲ 石斧出土地点

■ 住居跡





第 3 図　A地点出土の石器（縮尺1/2）　　A地点出土石器

が，上部には擦痕はみられない。

2は黒耀石製で長さ26㎜，幅20㎜，厚さ7㎜を測る。長軸の片側と短軸の片側を表裏片面から刃部調整を行なっている。

これらの石器はおそらく縄文後・晩期に属するものと考えられる。

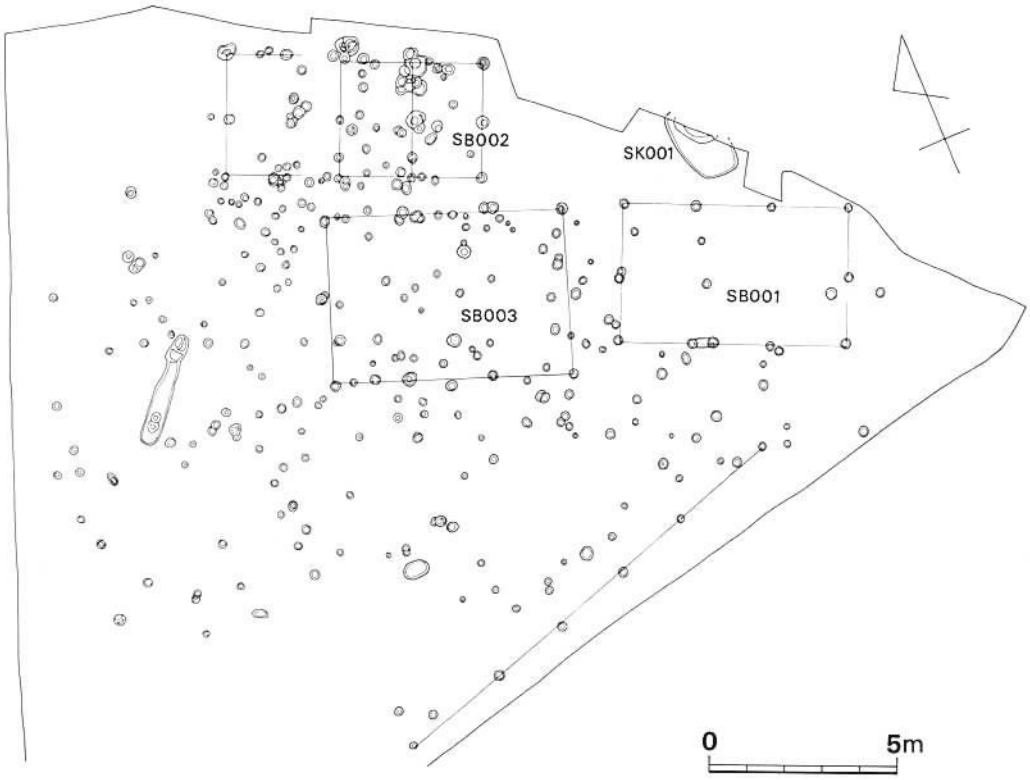
2）C地点の調査

C地点では第4図に示したように掘立柱建物3棟分と土壙1，柵列らしきものおよび柱穴群が検出された。

第1号掘立柱建物（第5図）　主軸をN－67－W，ほぼ東西にとる2間×3間の建物である。柱間寸法は柱穴の中心で測った数値を図面に示した。梁行・桁行ともに若干の出入はあるが，梁行の柱間は6尺を基準としたものと推定できる。柱根の跡が残るものから柱根の径は15cm弱のものと判断できた。

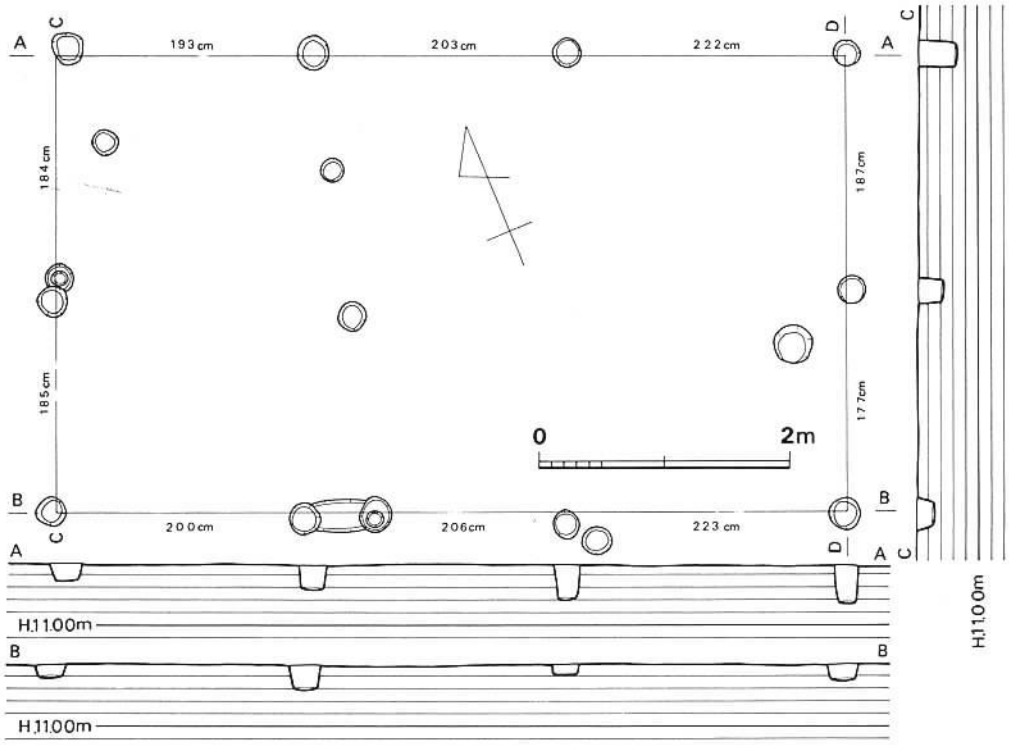
第2号掘立柱建物（第6図）　主軸をN－66°－W，ほぼ東西にとる2間×2間の総柱の建物である。さらに西側に2間分柱穴のならぶものがあるが，梁行・桁行ともに柱間寸法があわないので別の建物と考えられる。柱間寸法は柱穴の中心で測ったものを示している。梁行・桁行ともに若干の出入はあるが，梁行の柱間は5尺，桁行の柱間は8尺を基準としたものと推定できよう。

第3号掘立柱建物（第7図）　主軸をN－72°－W，ほぼ東西にとる2間×3間の建物である。梁行の中央の柱は東西ともにややはみ出しており棟持柱であることがわかる。柱間寸法は柱穴の中心で測った数値を示した。梁行・桁行ともに若干の出入はあるが，梁行の柱間は7.5尺，桁行の柱間は7尺を基準としたものと推定できる。柱根の痕跡の残るものから，住根の径は約15cm



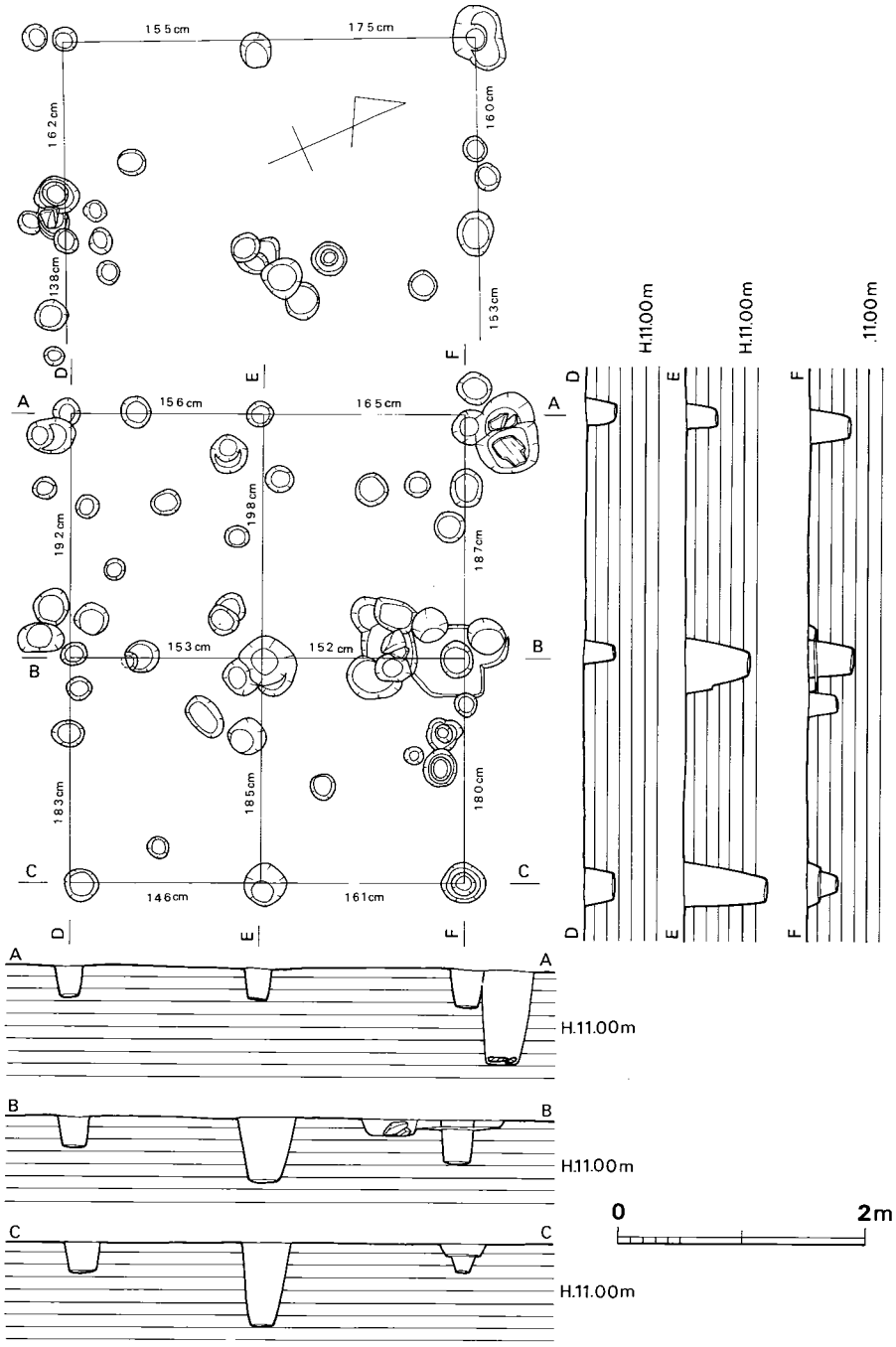
第 4 図　C 地 点 遺 構 配 置 図（縮尺1/200）

C 地 点 全 景（ 西 側 か ら ）



第 5 図　1 号 掘 立 柱 建 物（縮尺1/60）

1 号 掘 立 住 建 物（ 東 側 か ら ）



第 6 図　2 号 掘 立 柱 建 物（縮尺1/60）

2・3号掘立柱建物（西側から）

と判断できた。

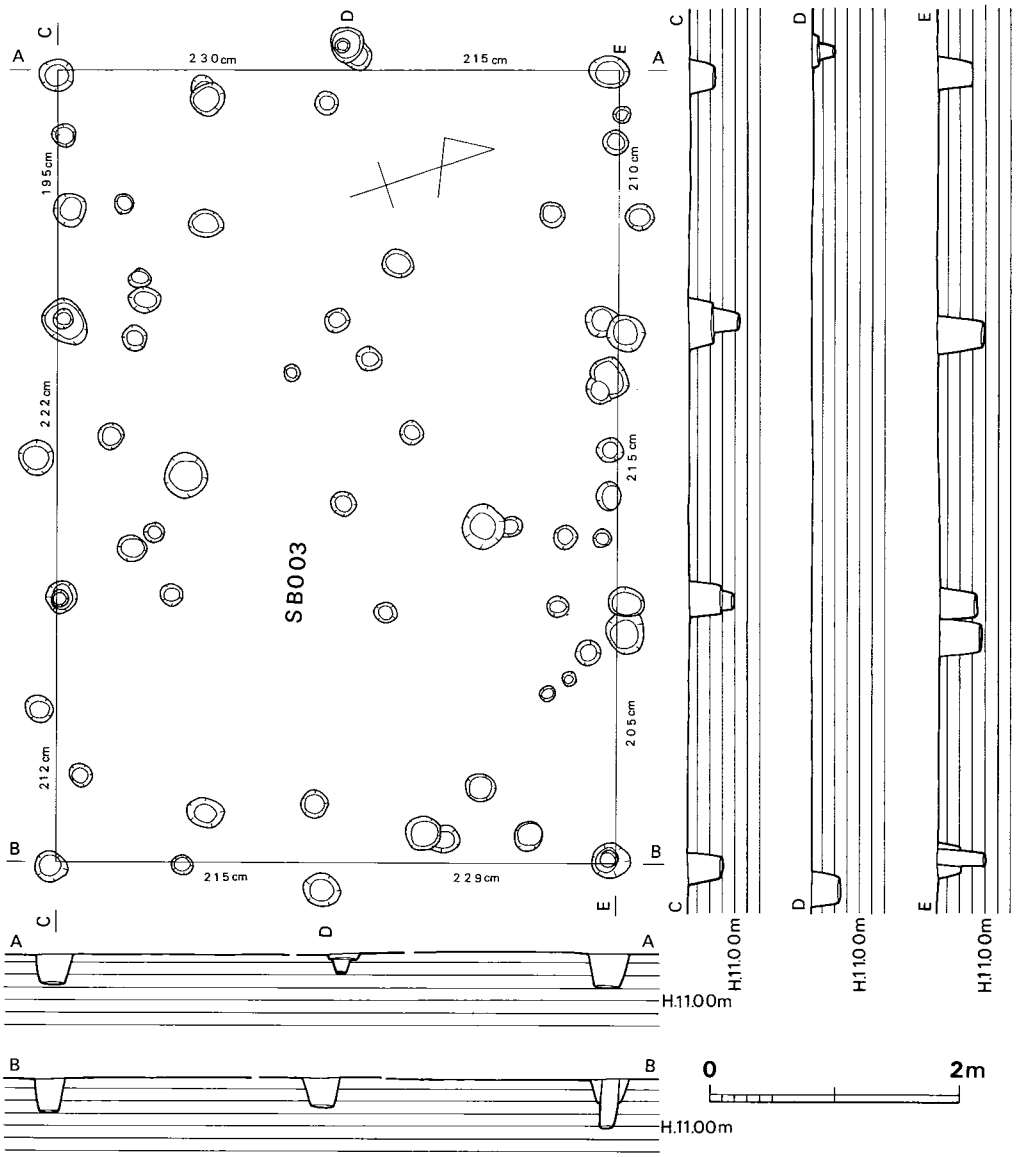
第1号土壙（第8図）　約220cm×130cm程の隅丸長方形の土壙で，中央部にはさらに長円形の深さ50cm程の掘込みがある。遺物は平安時代の土師器小皿・坏・青・白磁，石鍋等の少片が出土しており，掘立柱建物群に伴う施設と考えられる。

出土遺物（第9図）

越州窯青磁をはじめとする青・白磁，黒色土器，土師器坏・皿，石鍋等の小片が，点数は多く出土しているがほとんどは図示するにたえない。時代的には平安時代前期～平安時代末頃までのもので，平安末期のものが最も多い。第1号土壙，D地点の溝・土壙出土遺物，表層出土遺物も同様である。したがって掘立柱建物は平安時代末頃のものと考えてよかろう。

いま時期を判断する資料として最適と考える土師器を図示して説明したい。

1は復原口径96mm，高さ13mm，復原底径84mm。底部は糸切り離しで，内外ともにヨコナデを施す。黄褐色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。



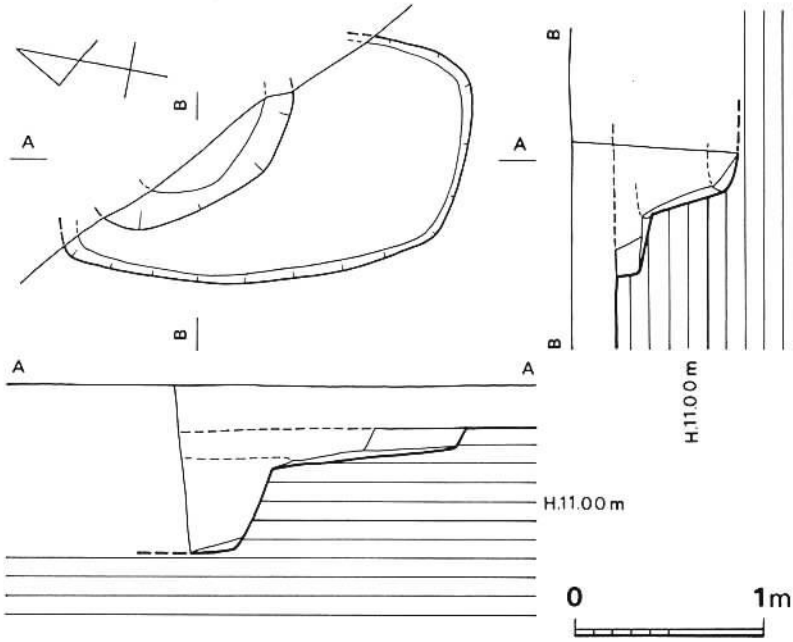
第 7 図　3 号 掘 立 柱 建 物（縮尺1/60）

2は口径94㎜，高さ12～14㎜，底径69㎜。底部は糸切り離しで，内外ともにヨコナデを施す。茶褐色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

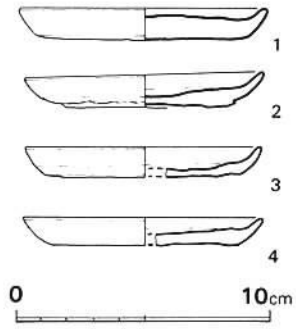
3は復原口径93㎜，高さ12.5㎜，復原底径76㎜，底部は糸切り離し痕の上に板目がみられる。内外ともにヨコナデ。淡黄色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

4は復原口径93㎜，高さ11㎜，復原底径74㎜。底部は糸切り離しで，内外ともにヨコナデを

施す。淡黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 8 図　1 号土壙（縮尺1/40）

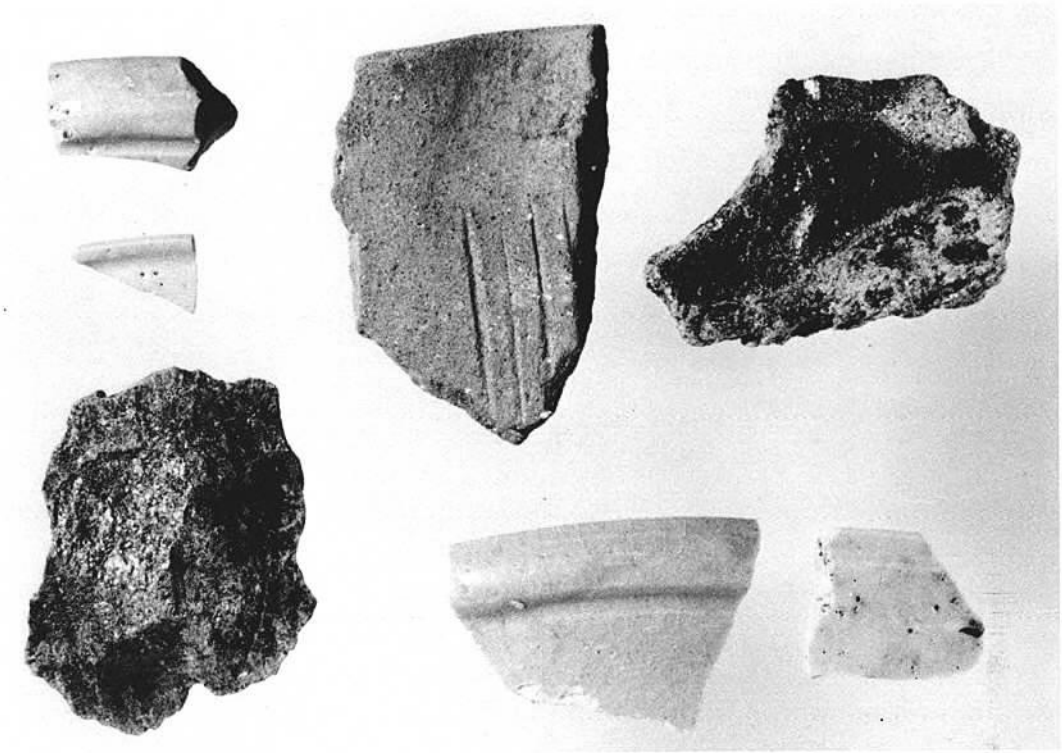


第 9 図　C地点出土の土師器（縮尺1/3）

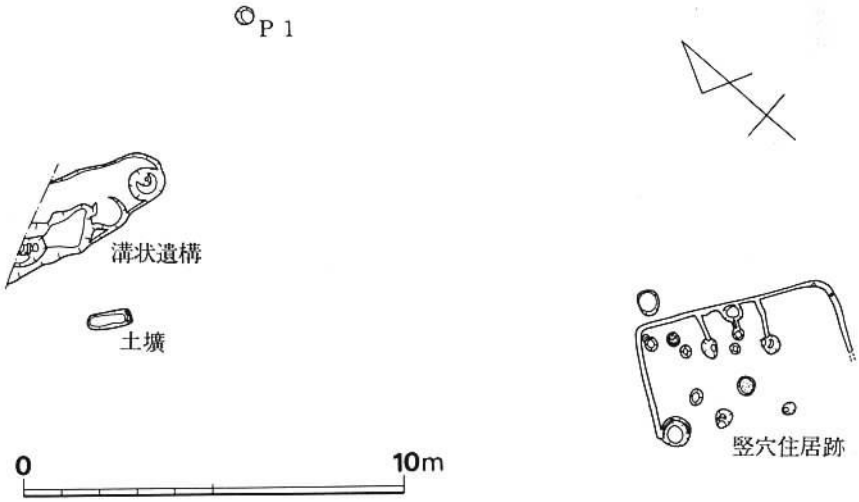
C地点出土の土師器

3）D地点の調査

D地点は丘陵上の緩い西斜面に当る。丘陵は後世の田畑の耕作により著しい削平を受けていたことから遺構は殆んど遺存しておらず，僅かに竪穴住居跡1軒，土壙1基，溝状遺構1条の他，柱穴1個を検出したに過ぎない。



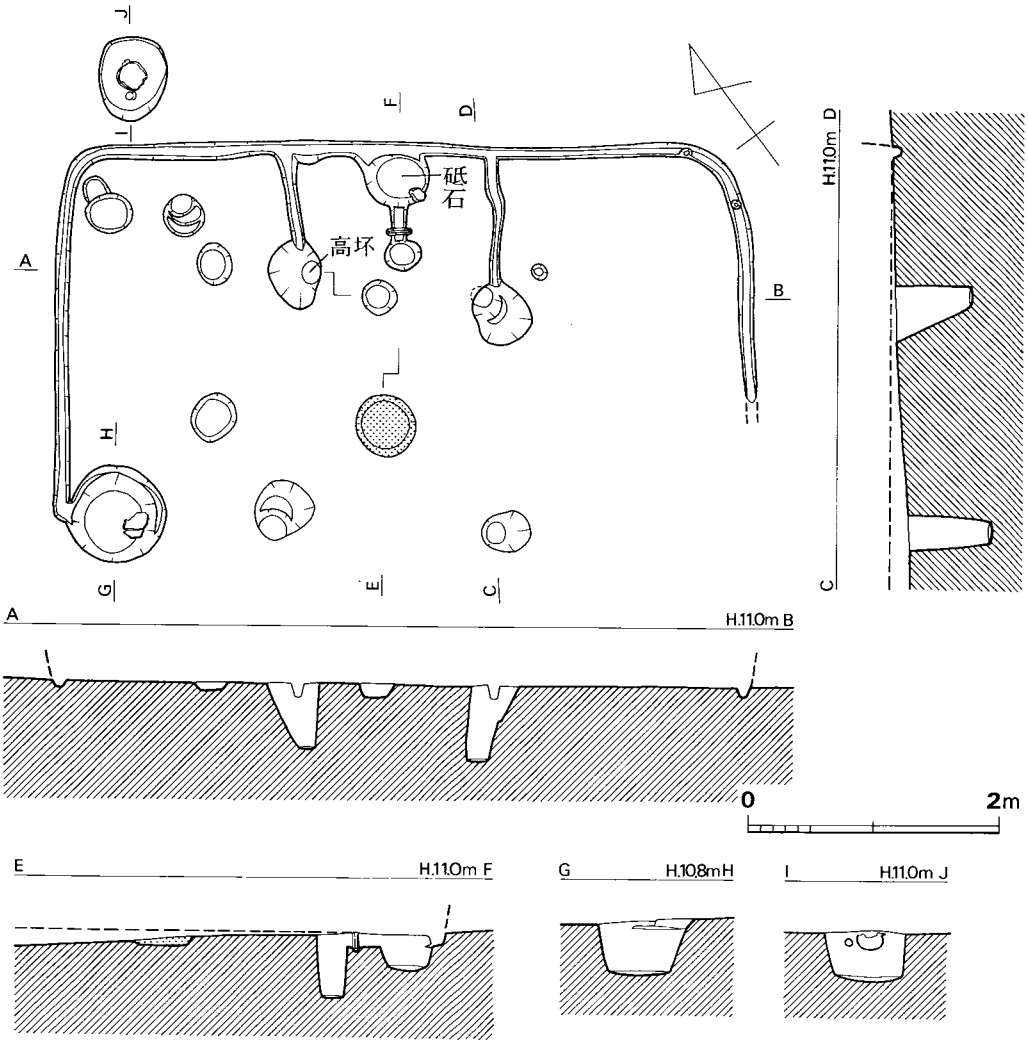
C・D地点出土遺物　左C地点出土　右上D地点溝 右下D地点表層



第 10 図　D 地 点 遺 構 配 置 図（縮尺1/200）

竪穴住居跡（第11図）

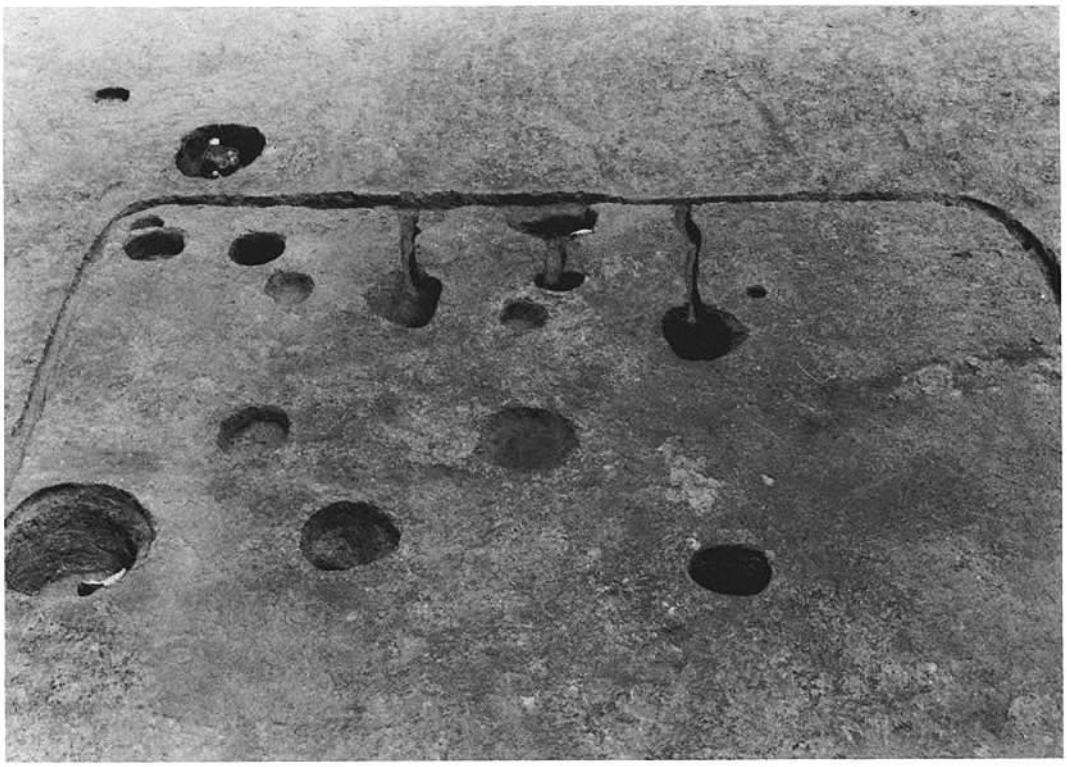
調査区の南西側で検出した竪穴住居であるが，削平を受け壁は無論のこと本来の床面も殆んど残存していない。平面形状は不明瞭であるが，北東壁側の２本の主柱と周溝までの距離を対



第 11 図　D 地 点 竪 穴 住 居 跡 実 測 図（縮尺1/60）

峙する壁に適応すると長方形に近い形状を示す。規模は北東壁側が計測可能で5.35ｍを測るが主柱から周溝の距離間を測り対応する壁を復原すると短辺は4.25ｍの数値が得られる。主柱は4本であるが，北側の1本が他の3本に比べてやや東側にずれている。4本の柱間は長辺側が1.35・1.75ｍ，短辺側が2.10・1.85ｍである。なお，北側の主柱穴から高坏の脚部片が出土している。

北東壁沿いには50cm×40cm，深さ30cmの円形の屋内土壙を備えている。底面近くから砂岩製の砥石片が出土し，肩口からは石魂を検出した。屋内土壙は壁沿いに廻る周溝と直結し，さらに土壙から住居の中央方向に短い溝を掘り，深さ50cmの柱穴と繋がる。その間には溝と直交する細い掘り込みを設け水流を止める措置かと推測される。板状のものを使用したのであろう。



竪穴住居跡全景

屋内土壙

住居跡外側の土壙

周溝は現存で三辺に認められるが，主柱穴から周溝に向って２本の細い溝が直結しており間仕切りとも考えられるが，周溝が北西壁際にある径25cmの円形土壙に繋がっており，土壙の底には泥炭に似た粘土が堆積していたことと周溝が円形土壙に向って底面レベルを下げていることから，湧水が周溝を流れ円形土壙に溜る構造となっていたと考えられ，土壙は住居の隅に設けた多目的な水溜め遺構と推測できる。中からは壺片が出土した。４本柱の対角線上には円形の炉を設けており，壁面が著しく焼け赤変していた。

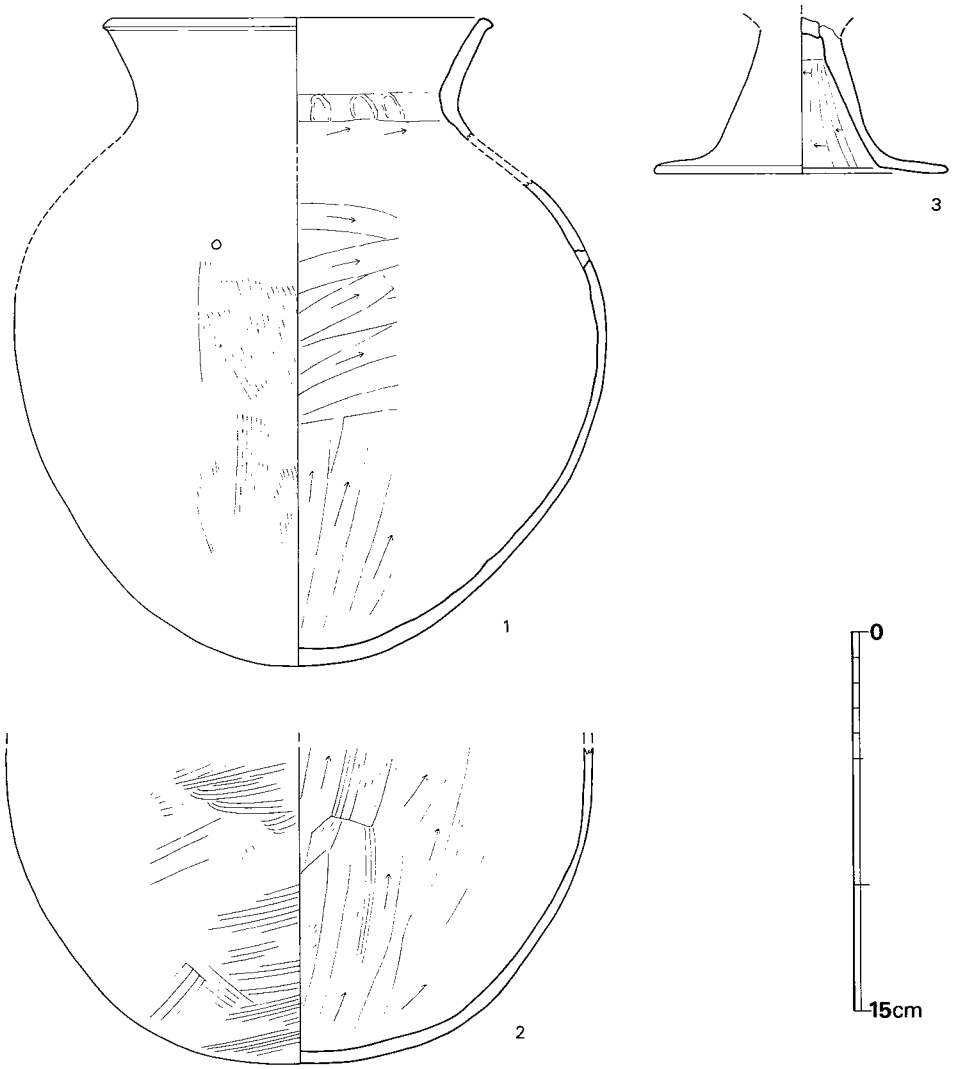
さらに，北側壁の外側には長径65cm，短径55cm，深ち40cmの不整円形に近い形状の土壙を掘っており，底面から20cm浮いた状態で壺形土器と小型丸底，ミニチュア土器が出土している。土壙の出土土器は竪穴住居のそれと同一時期であり，しかも壁に隣接し過ぎていることから住居の上部構造を考慮すれば造り出し状の覆いを作り住居の内部に設置していたと考えられる。

出土遺物は壺・高坏・小型丸底・ミニチュア土器の他，砥石が１点ある。出土土器から住居の時期は５世紀初頭に近い頃に比定できよう。

出土遺物

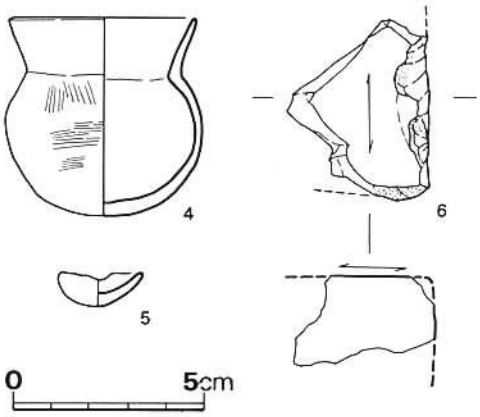
土　　器（第12・13図）

壺は１・２がある。１は布留式の広口壺の系譜を引く壺で，布留式のそれに比較して口縁は



第 12 図　竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

短かく口径は広い。北壁外側の土壙から出土した。口唇部は外側に肥厚させ球形に近い胴部有す。調整は口縁部が横ナデ，体部は外面が荒いハケをナデ消し，内面はＴ寧なヘラ削りを施し，器壁を薄く仕上げている。頸部内面には指圧痕が残る。胎土は砂粒を多く含み金雲母が若干混在する。焼成は頗る堅固で明茶褐色を呈する。内外面とも二次加熱を受け，外面には煤が付着する。さらに，胴上半部には小さな孔を焼成後に穿っていることから，最終的には家内祭祀に使用した土器の可能性が強い。２は安定感のある底部片で，調整は１と同様であるが２の方がハケ・ヘラ削りとも粗い。器壁は１と同様薄い。胎土焼成・色調とも１に酷似し，外面に



第 13 図　竪穴住居跡出土土器・石器実測図　（縮尺1/2）

は煤が著しく付着する。水溜土壙内から出土した。

3は主柱穴内から出土した高坏脚部片で，柱状部は短かく裾部は鋭く開く。調整は外面がナデ，内面は横方向のヘラ削りで仕上げる。胎土には砂粒やや多く，焼成は頗る堅固である。明茶褐色を呈する。

4は小型丸底のミニチュア土器で1の壺と一緒に出土した。調整はナデを基調とするが，外面には僅かにハケが残る。つくりの丁寧な土器で明茶褐色を呈する。口径4.9cm，器高5.2cmを測る。

5はミニチュア土器で非常に簡素なつくりである。胎土・焼成・色調とも4に酷似する。

1

4

3

6

竪穴住居跡出土遺物

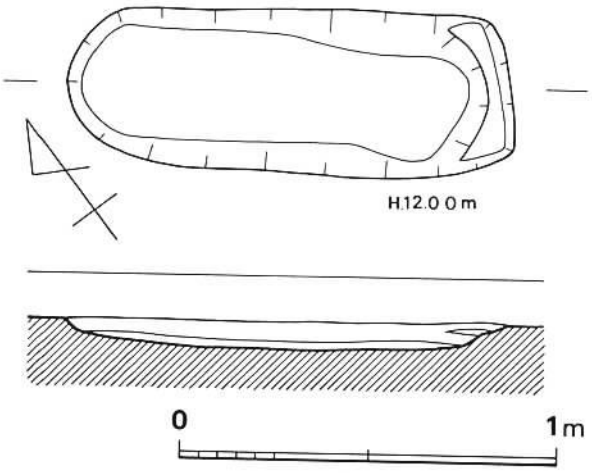
石　器（第13図）

砂岩製の中砥石片である。現存する砥ぎ面は1面のみで，右側と下端の一部に自然面を残す。屋内土壙の底面近くから出土した。

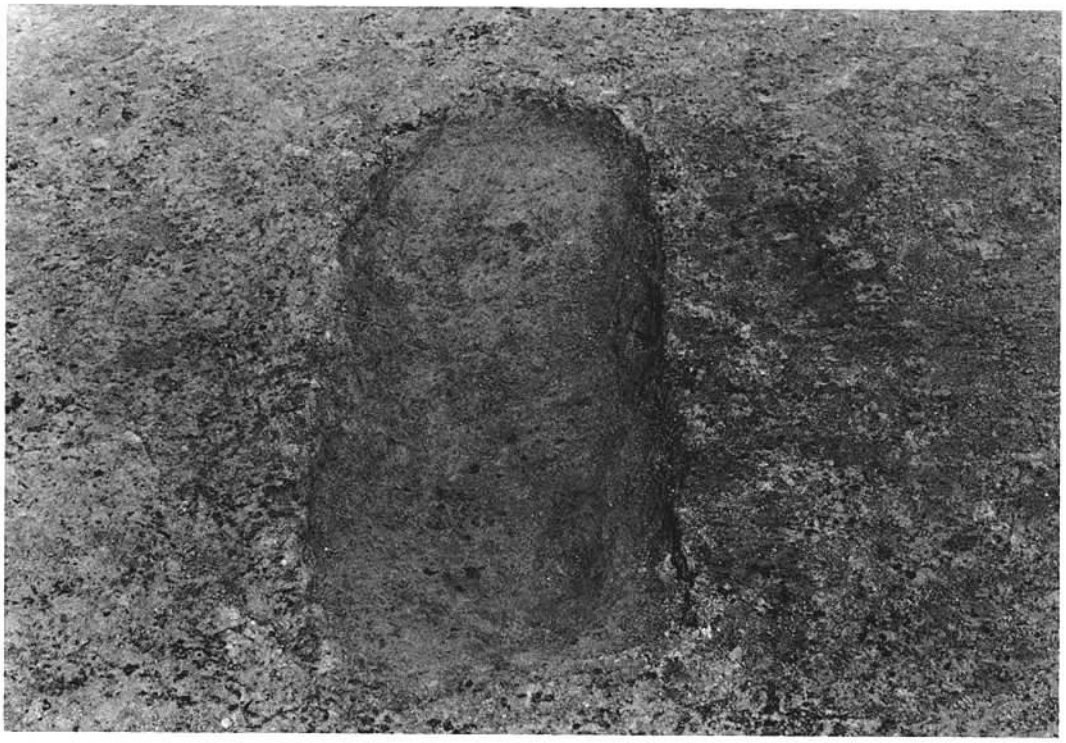
土　壙

溝状遺構の南西側で検出した楕円形に近い形状をした土壙である。西南側の小口部はテラス状遺構を設け二段掘りである。遺存状態は悪く，規模は長軸1.18m，短軸45cm前後，深さ8cmを測る。主軸方位はN53°Wを示す。

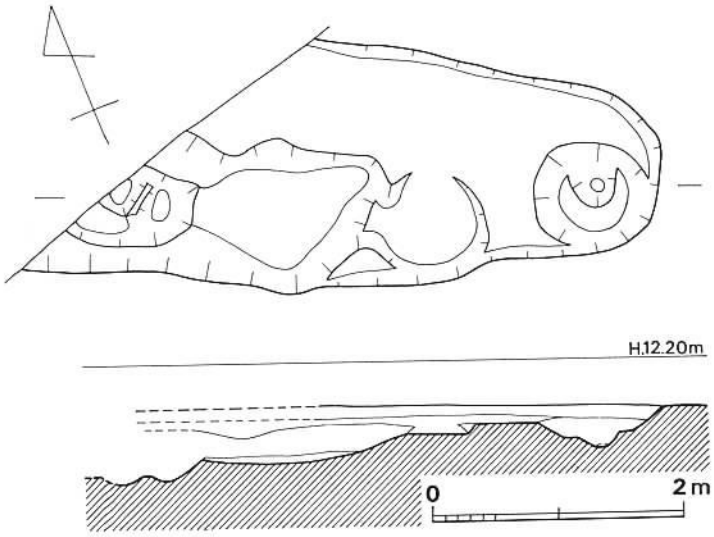
出土遺物は白磁の埦，土師器，瓦器埦の極細片が僅かにある。出土土器から土壙の時期は平安時代であろう。



第 14 図　D地区土壙実測図（縮尺1/20）



D 地 点 土 壙（東 南 より）



第 15 図　D地点溝状遺構（縮尺1/60）

溝状遺構

調査区の北西側で検出した溝で一部を確認したに過ぎない。溝は調査区内で完結し，大半が調査区外であるため全容は不明である。検出した全長は5.0m，幅は広い所で2.0mを測る。溝の底面はかなり複雑な様相を呈し，テラス状とピット状の遺構を確認した。溝の用途は明らかでない。

出土遺物は青・白磁埦，土師器坏・片口土器，瓦器埦，石鍋等の小破片の他，刀子とおぼしき小鉄片がある。出土土器から溝の時期は平安時代後半に近い時期であろう。

D地点溝状遺構（東南側から）

今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第12集

東・太田遺跡

昭和 60 年 3 月 31 日

発 行 福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園 7 番 7 号

赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8番34号